

## 2023 年 12 月ハイパーカレンダーレポート

ICT 教育サポーター育成プラットフォームの活動も 1 年 8 カ月が過ぎた。現在、約 40 名のサポーターが県立学校 58 校、私立高校 2 校、小中学校 15 校を訪問している。このプラットフォームは名前にあるように「ICT 教育サポーターを育成する」プラットフォームであり、その実現のための様子を紹介する。

まず継続したスキルアップを目指し、毎月オンラインでフォローアップ研修を実施している。アプリの操作研修や知識習得の講義、最近では生成 AI の実習など、幅広い内容を取り上げる。専門分野の外部講師に講演いただき交流する場もある。また、実際の授業を見学することを研修として推奨し、学校の垣根を越えて、先生方からアドバイスをいただくこともある。こうした研修から経験を積んだサポーターは、教員向けの校内研修を実施する回数も増え、その内容も幅広くなってきた。最近では、サポーターが自主的に勉強会や交流会を企画し、スキルを高め合うコミュニティへと進化してきており、ICT 支援員全国大会に参加したメンバーもいる。

ところで、このプラットフォームが結束力を高めている 1 つの要因に SNS (Slack) がある。サポーターは週に 1 回、1 人で学校を訪問し、先生方からの多種多様な質問に対応する。現地で調べても分からない場合は、メンバー全員が参加する Slack を利用し、相互に助け合いながら問題を解決していく。より専門的な相談は GIGA ヘルプデスクと密接に連携する。現場では孤独を感じることも多いサポーターだが、Slack の向こうには信頼関係が構築されたメンバーがいる。そこが大きな支えであり、このプラットフォームの大きな強みとなっている。また、GIGA ヘルプデスクは常時 2 名体制で、大分県教育庁 8 階、県ヘルプデスクの部屋に席を置いている。先生方からの様々な相談がここに寄せられるが、他の組織とも横連携をして対応する体制が整いつつある。

12 月 22 日、大分市で開催したオフライン研修には、雪が降る中、有識者を含め約 50 名が集合した。この日の研修テーマは「教員の ICT 活用指導力向上のためのアクションプランの提案」。サポーターたちは熱心に、教員へのアプローチ方法や内容について様々なアイデアを出し合った。今後は、一人一人のプランに落とし込んで動いていく。

今年度 10 月末に実施したアンケート（県立学校教員 1,680 名が回答）では、「ICT 教育サポーターの活動効果があるか」について約 90%が「ある」、また「今後のサポーターの活動に期待しているか」については 92%が「期待する」と回答があった。一方、GIGA ヘルプデスクについては、「知っている」が 37%にとどまったことから、その認知度を高めることと、先生方とのコミュニケーションの機会を増やすため、活動を PR するチラシを作成・配布、さらにポータルサイトを作成・公開した (<https://ictplatform.education/oita/>) ここでは、サポーターの活動の様子や GIGA ヘルプデスクによくある質問などを掲載している。学校関係者はもちろん、多くの方にご覧いただきたい。

未来に向けて子どもたちの可能性が広がる学びの場を支えていくために、今後さらに、学校、保護者、地元企業や大学などと協働し、プラットフォームの活動を展開していきたい。



12 月オフライン研修会の様子



ICT 教育サポーター育成プラットフォーム  
ポータルサイト <https://ictplatform.education/oita/>

(文責：渡辺律子)